

であろう。

総観規模については、航空機の補充観測を含めて、できるだけ多くの地点において高層観測を行なう必要がある。また海洋上の観測網を密にするために、あらゆる可能な観測点において、天気や海況に関する地上観測を行なわなければならない。

<決議事項>

AMTEX の運営を次の2つの委員会に委ねるよう提案する。

1) 企画委員会 (Steering Committee)

この委員会の目的は、この実験の全般的な方策と指針を打ち出すことである。この委員会は日本4名、外国4名計8名の委員によって構成される。議長として山本義一教授を推すよう勧告する。それぞれの国の GARP 国内委員会がこの問題について検討するまで委員として次の会議参加者を臨時に指名する。

オーストラリア A.J. Dyer

カナダ G. McBean

アメリカ D. Lenschow

ソ連 参加を要請する

日本 岸保・北岡・光田・山本

2) 実行委員会 (Management Committee)

この委員会の役目は、AMTEX の詳細な実験計画を立案することになるであろう。この委員会は多くの地域的な問題を処理しなければならないであろうから、委員は全員日本側の委員によって構成されるよう提案する。

実行委員会は最初の仕事の一つとして、中核となる実験 (Core Experiment) を計画するに当って指針として役立つ理論的モデルを撰定する作業委員会を任命するよう勧告する。作業委員会は、このモデルが観測期間中に、どの程度準実時間で走査し得るか、またその時点でどんな観測資料が要求できるかを決定しなければならない。

(GARP 組織委員会 (JOC) への働きかけ)

AMTEX 研究会議の概要報告を JOC に提出し、AMTEX に関心を持ち、さらに AMTEX に参加するよう、JOC が加盟各国に概要報告を配布するよう要請することを勧告する。

(文責 曲田光夫)

## 昭和47年度 学会賞、藤原賞受賞者

昭和47年度日本気象学会賞、藤原賞の受賞者は、下記のとおり決定した。

記

**学会賞** 台風の数値実験および熱帯波動じょう乱の不安定理論

大山勝通 (ニューヨーク大学)

山岬正紀 (気象研究所)

**藤原賞** 研究および著述を通じての永年にわたる気象物理学ならびに気象熱力学への貢献、および日本の気象災害史の研究

荒川秀俊 (東海大学教授)